

北海道教育委員会教育長 様

北海道静内高等学校長 酒 井 徹 雄

令和7年度(2025年度)学校評価報告書

次のとおり令和7年度(2025年度)の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- 1 基本的な生活習慣を確立し、思いやりのある心豊かな人格の育成を図る。
- 2 自らを律し、学習や部活動等に意欲的に取り組み、目標に向かって努力を惜しまない態度を育む。
- 3 地域との連携に努め、生徒一人一人を大切にしたいきめ細かな指導を継続し、次代を担う有為な人材を育成する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果												
学習指導	<p>学習目標の明確化及び家庭学習の定着を図り、個に応じた指導を充実させる。</p> <p>【指標】家庭学習時間の平均値が普通クラス 60分以上、特進クラス 120分以上</p> <p>【結果】12月2日実施</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年</th> <th>2年次</th> <th>3年次</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普通クラス</td> <td>60分以上 32.1%(55.7)</td> <td>30.0%(35.0)</td> <td>20.4%(32.3)</td> </tr> <tr> <td>特進クラス</td> <td>120分以上 27.0%(23.5)</td> <td>42.9%(30.9)</td> <td>85.7%(88.6)</td> </tr> </tbody> </table>		1年	2年次	3年次	普通クラス	60分以上 32.1%(55.7)	30.0%(35.0)	20.4%(32.3)	特進クラス	120分以上 27.0%(23.5)	42.9%(30.9)	85.7%(88.6)	<p>【自己評価の結果の内容の適切さ】 B</p> <p>【今後の改善方策の適切さ】 B</p> <p>【評価者の意見等】</p> <p>授業外学習に取り組むための「具体的な時間設定」や「校内自習環境の戦略的提供」を検討し、実行すること。調査結果を学校側の分析だけで終わらせず、生徒自身の「自信」へと繋げる還元方法を確立してもらいたい。例えば、学習記録や活動実績をポジティブにフィードバックする面談の実施や、ICTを活用した努力の可視化を行い、生徒が自らの成長を実感できる体制を整えることを期待する。</p>
	1年	2年次	3年次											
普通クラス	60分以上 32.1%(55.7)	30.0%(35.0)	20.4%(32.3)											
特進クラス	120分以上 27.0%(23.5)	42.9%(30.9)	85.7%(88.6)											
改善方策	<p>学習時間が増加傾向に転じたが、特に2年次普通クラスの家庭学習が定着していない。家庭学習の意義に係わる啓発活動とともに、生徒への還元方法を具体的に検討し実行する。(授業外学習時間へ取り組むための時間設定など)</p>													
生徒指導	<p>本校の『いじめ防止基本方針』のもと、家庭、地域、関係機関等の協力を得ながら、教育相談的指導を充実させ、「いじめ」の未然防止、早期発見・早期対応に取り組む。</p> <p>【指標】いじめアンケートにおいて、「いじめはどんな理由があっても絶対許されない」と回答する生徒を100%とするとともに、あわせて「いじめ0」とする。</p> <p>【結果】1年次 1年次 87.0%(94.7)、2年次 93.3%(93.2)、3年次 91.9%(83.4) 全体 90.7%(92.0)</p> <p>いじめ認知件数 25件(解消済)</p>	<p>【自己評価の結果の内容の適切さ】 A</p> <p>【今後の改善方策の適切さ】 A</p> <p>【評価者の意見等】</p> <p>人に対する思いやりや自他を尊重する精神は教育の根幹である。単なるアンケートの数値目標として捉えるのではなく、道徳教育や特別活動を通じ、生徒一人ひとりの心に「いじめは絶対悪」という規範意識をいかに深く根付かせるか、より踏み込んだ指導を期待したい。「いじめ見逃し0」の取組は素晴らしい。生徒が安心して学び、自己肯定感を高められる学校づくりを、引き続き強く推進されることを望む。</p>												
改善方策	<p>「いじめ0」から「いじめ見逃し0」という観点でいじめ調査をしているため、認知件数は増加している。認知件数が増えることは、見逃し0へつながるため、よい傾向であることの認識をもっている。引き続き「いじめ防止の取組」について継続的にちょっとした兆候やサインを見逃さない姿勢で指導を継続する。</p>													
進路指導	<p>各年次に応じて、生徒一人一人に視点を当てたきめ細かな進路指導を行う。</p> <p>【指標】3年次生の進路決定率 100%</p> <p>【結果】就職 100%、進学 70.8%</p> <p>全体 83.7% (2月19日現在)</p>	<p>【自己評価の結果の内容の適切さ】 A</p> <p>【今後の改善方策の適切さ】 A</p> <p>【評価者の意見等】</p> <p>普通クラスを含め、1年次という早い段階からの進路指導の充実を強く期待する。卒業間際の対応だけでなく、入学当初から将来のキャリア形成を意識させる取り組みを加速させることで、生徒一人ひとりの主体的な進路選択が可能になると考える。</p>												
改善方策	<p>年次枠を越えた情報交換の機会を充実させるとともに、活用しやすいデータ・資料の提供に努める。</p>													
公表方法	学校ホームページ及びPTA総会													

3 添付資料

- (1) 令和7年度(2025年度)自己評価書
- (2) 令和7年度(2025年度)学校関係者評価書